

横須賀探訪 2025

旅のチカラ研究所

2025 年 9 月

旅のチカラ研究所 植木圭二

私が会員になっている日本旅行作家協会の日帰りイベントで横須賀の猿島、戦艦三笠、横須賀湾内クルーズ、浦賀レンガドックを巡ってきた。今回は旅行記というより旅行記録（レポート）としてまとめた。

■計画概要

神奈川県横須賀市はペルーに始まり、明治日本の発展の礎になり、第二次世界大戦後はアメリカとの共存の街になっている。その独特の雰囲気がある港街を1日で巡る旅の行程表が以下のものになる。

横須賀探訪 2025年9月18日(木) 実施予定		
時間	行程	備考（費用など）
10時00分	京急横須賀中央駅集合 徒歩で戦艦三笠へ 1.1km 徒歩約15分（参考 品川9:00→横須賀中央9:56）	
10時30分	三笠桟橋から猿島へ フェリー片道10分 猿島内を見物 滞在は65分間	フェリー往復1500円
11時45分	フェリーで三笠桟橋に戻る	
12時00分	戦艦三笠見学 約30分間	600円
12時30分	徒歩で汐入ターミナルへ移動 1.3km 徒歩約20分 90分あるので途中の“ドブ板通り”で昼食	
14時00分	汐入ターミナルから軍港クルーズ乗船 45分間	クルーズ費用2000円
14時45分	汐入駅まで徒歩で移動 500m 徒歩約7分	
15時04分	汐入駅から電車で浦賀駅へ移動 電車で15分 浦賀駅から浦賀レンガドックへ 900m 徒歩約10分	電車代228円
15時30分	浦賀レンガドック見学 60分間	500円(ガイド料)
16時40分	浦賀駅で解散 (浦賀16:46→堀之内乗換→品川17:51)	

【行程表】

■猿島

猿島は横須賀沖に浮かぶ無人島で、およそ 400m×150m、形は四国に似ている。東京湾入口に位置しているために昔から首都防衛の拠点になっており、島全体が要塞化された。

第二次世界大戦後は 1961 年までアメリカが管理し、現在は横須賀市所有の「猿島公園」となっている。そのため船のチケット購入と同時に入園料 200 円が徴収される。

苔むす切通しやレンガのトンネルなど独特の景観なので、映画やドラマの撮影でも多く使われ、「仮面ライダー」のショッカー軍団の基地にもなった。観光客は年間約 20 万人と意外に多い。



【上：要塞の切通し、下：レンガのトンネル】

■戦艦三笠

猿島へ渡る船の船着き場の隣に戦艦「三笠」がある。三笠は日露戦争では連合艦隊旗艦を務め、東郷平八郎が乗った。そのために船の前に東郷平八郎の銅像がある。

私たちが艦内を見学していると、84歳のボランティアのおじいさんがやって来ていろいろ教えてくれる。三笠はロシアのバルチック艦隊を破った栄光の船で、船首は皇居を向いて置かれている。なぜ記念艦になったかという、第一次世界大戦後のワシントン海軍軍縮条約により新造する戦艦の枠を確保するために廃艦にした・・・等々。



【上：三笠の全景 下：甲板から見た主砲】

■ランチ

戦艦三笠から汐入方面に歩いていくと、横須賀で有名な“ドブ板通り”がある。その一角に地元の人や観光客にも人気のレストラン「TSUNAMI」がある。どういう訳か入口の上には鉄人28号が立っている。

横須賀と言えば、海軍カレーと横須賀ネイビーバーガーが有名で、私はどちらも食べたいと思って「横須賀海軍カレーバーガー」を注文する。メニューにはハーフサイズと書かれていたが、実際に出てきたものはかなり大きい。豪快にハンバーグにかぶりつくのは難しく、全部食べきるには根性が必要だ。



【上：TSUNAMI の入口 下：横須賀海軍カレーバーガー】

■横須賀港クルーズ

横須賀港は今から約 160 年前にペリー艦隊が上陸して以来、軍港として発展してきた。現在はアメリカ海軍と海上自衛隊の基地があり、それらの艦船を間近で見ることができる。

その横須賀港を巡るクルーズ船に乗り込むと、女性の案内人がマイクですっと説明をしてくれる。その内容が実に的確で、あまり知られていない興味をそそることまで話してくれる。

本日はアメリカ海軍の空母「ジョージワシントン」が入港しており、普通は陸上からは真正面に見ることは出来ないとか、日本の 3 世代の潜水艦が全て揃っているのも珍しいとか言っている。



【上：アメリカ空母ジョージワシントン 下：日本の潜水艦】

南極観測船「しらせ」は、現在は海上自衛隊が運航しているので、南極から戻ってきてここに停泊している。南極での砕氷が進まずにペンギンに追い抜かれたという話もしてくれる。

最新のイージス艦は敵のレーダーに発見されにくくするために船体の凹凸を極力なくした型になっている。確かに凹凸が少ない異様な形をしている。

船ではないが、海上設備として消磁装置がある。機雷の中には磁力に反応するものがあるので、船体に付着した磁力を消すことができる。



【上：南極観測船しらせ 中：日本の最新イージス艦 下：消磁装置】

■浦賀レンガドック

浦賀駅から 10 分くらい歩くと、船がすっぽり入るように地面を掘ったドックがある。海水を完全に排水できる構造をしているからドライドックとも呼ばれる。通常は施設内には入れないが、今回はガイドを頼んでいるので入ることができる。

ガイドの説明では、ドックは長さ 180m、幅 26m、深さ 11m とかなり大きい。大きいだけでなく重厚感たっぷりで独特の趣がある。その重厚感はドック内側の壁面に 215 万個のレンガが使用されているからで、それゆえ「レンガドック」と呼ばれている。

1899 年（明治 32 年）に建造されてから 2003 年まで稼働して、2021 年に横須賀市に無償供与された。このようなレンガドックは大変珍しく、全世界で 5 か所しかないという。



【上：レンガドックの前方の上から見る 下：レンガドックの中から前方を見る】

■浦賀駅前

解散場所の浦賀駅前で面白いものを見つけた。地元の浦賀中学校の美術部が 2014 年に描いた油絵で、横が 4m くらい、高さ 1m30cm くらいの結構大きなものだ。

ペルーが乗ってきた旗艦サスケハナを中心に、ミシシッピ、プリマス、サラトガの 4 隻が描かれている。

黒船と呼ばれていたもので確かに黒い。この黒い塗料はコールタールで、腐食防止や貝殻の付着防止のためだと、レンガドックのガイドから聞いていた。



【横須賀駅前の浦賀中学校美術部が 2014 年に描いた油絵】

■旅の記録

実施は 2025 年 9 月 18 日（木）、参加者 16 人で、その実際の行程は冒頭の行程表どおりに進んだ。

総費用は約 8300 円になった。この中には個人負担の昼食と往復交通費も含まれている。尚、猿島のフェリーに乗ると、その半券で戦艦三笠の見学が 100 円安くなり、横須賀湾内クルーズは半額の 1000 円になった。その割引後の詳細を記す。

- ・猿島往復フェリー 1500 円
- ・戦艦三笠見学 500 円（猿島フェリーで 100 円引き）
- ・横須賀湾内クルーズ 1000 円（猿島フェリーで 1000 円引き）
- ・浦賀レンガドック 500 円（よこすかシティガイド協会のガイド料）
- ・昼食 約 3000 円（海軍カレーバーガー、ビール）
- ・電車代 約 1800 円（自宅～横須賀エリア往復）